



新しい校歌を披露 ～義務教育学校 塩原小中学校～

今年4月から義務教育学校となった塩原小中学校の開校式が、4月10日に行われました。式典には児童生徒96人のほか関係者が多数出席。児童生徒を代表し、9年生の荒井虹輝君が「校訓『共に生きる』を世界に発信していきます。そして、これからも全児童生徒が共に頑張ることをここに誓います」と力強く誓いの言葉を述べた後、全員で新しい校歌を歌い、塩原小中学校の新たな門出を祝いました。



おっきな力エルにドキドキ ～「横小生きものちょうさ隊」～

横林小学校特認校推進委員会が2年前から地域の子どもたちを対象に実施している生き物調査。今回は、初めて夜の森での調査を行いました。4月15日の夕方、横林地区の森の中にある委員会メンバー宅に集合した15人の子どもたちは、巣箱から顔を出したムササビや、約20cmのアズマヒキガエルを見て大興奮。静かな夜の森に、子どもたちの歓声がいつまでも響いていました。今後も8月まで、月1回の調査を行う予定です。



小さな命を守るために ～なべかけ保育園 不審者侵入対応訓練～

全国で子どもたちの安全を脅かす事件が相次ぐのを受け、4月7日になべかけ保育園で那須塩原警察署主催の訓練が行われました。刃物を持った不審者が侵入してきた設定の中、園児を避難させつつ男を刺股で取り押さえる園職員。他園の職員約35人も様子を見学し、刺股の使い方の講習にも参加しました。警察署・生活安全課長によると「対峙せず逃げること。警察が到着するまでの時間をいかにして稼ぐかがポイント」とのことです。



花見気分で給食を楽しもう ～共英小 青空給食～

市内で桜が満開を迎えた4月13日、共英小学校の4年生が校内の敷地に咲く桜の下で給食を食べました。これは共英小では初めての試みで、新しい学年でのスタートにあたり、児童の仲間意識を作る目的で教員が提案したのがきっかけ。この日のメニューはパンを主食にコロッケやサラダ、かき卵汁など。4年1組の菊池優衣さんは「桜を見ながら食べる給食は100倍おいしい」とニコニコしながら口いっぱいほお張っていました。

ひよこの会でママ友を作ろう

育児の勉強をしながらママ友づくりが気軽にできると好評!!
学習中は保母グループがお子さまをお預かりするので安心です。



- ▶とき 6月～12月の主に第2・4木曜の午前中(全12回予定)
- ▶ところ 三島公民館 ▶定員 20組
- ▶対象 市内在住で、1歳～就園前の幼児のお母さんとお子さん
- ▶内容 育児講座、親子遠足、手作り講座、人形劇鑑賞、調理講座など
- ▶年会費 子ども1人につき4,000円 ※保険料、おやつ代含む。
- ▶申込開始日 5月9日(火) 午前9時～
- ▶申し込み・問い合わせ 三島公民館 ☎0287(36)8531

子どもの預け先でお困りなら…ファミリーサポートセンター

「病院に行きたいけど、子どもを預けられる人がいない」「仕事で習い事への送り迎えができない」。子育て中はこんな悩みを持つこともあるはず。ファミリーサポートセンターでは、子育て世代(利用会員)の悩みを解決するため、子育てをサポートできる人(サポート会員)を紹介しています。1時間700円からの料金で、習い事への送迎や病後の子どもの預かりなど、さまざまな場面で利用可能です。まずは気軽に問い合わせてください。▶問い合わせ ファミリーサポートセンター ☎0287(47)6252



詳しくは↑

利用者の声

利用会員

—仕事を続けられたのはファミサポのおかげ—



宮塚 博江さん
子ども2人(9歳、16歳)

私は東京で、夫は長崎の生まれ。そのため、近くに親族はいません。共働きで朝から夜遅くまで働いているので、ママ友からこのサービスを聞いて、すぐに利用しました。現在は部活の送迎など週3回ほど利用しています。

最初子どもを預けたときは不安だったのが正直なところ。でも、子どもが笑顔で帰ってくるのを見て、不安はすぐなくなりました。

頻繁に利用を続けていたので、子どもは本当のおばあちゃんだと勘違いしていたこともありましたが、現在ではサポート会員の方とは、実際の家族のような関係です。いろいろな人に面倒をみてもらいながら子育てができて、本当に良かったと思います。

子育て中は1人で悩みを抱え込んでしまいがち。そんなときは、お試しても良いと思うので、ファミサポを利用してみてください。きっと、不安や悩みは軽くなるはずですよ。

サポート会員

—今では暮らしの中の楽しみの一つに—



室井 幸男さん・民子さん夫妻

子どもは2人。孫もいますが、離れた場所に住んでいるのでなかなか会えません。昔から子どもが好きだったものの、保育士の資格などは持っておらず、何かできることはないかと思っていました。そんなとき出会ったのが、ファミサポです。

初めのうちは、お子さんを預かる不安は大きかったです。特に小さい子の場合はおさら。昼寝をしているお子さんの寝息を、片時も離れず耳をそばだてていたのを覚えています。今でも送り迎えの時は、細心の注意を払いながら車を運転しています。後ろの車に迷惑をかけるくらいかもしれませんが、お子さんの安全は何事にも代えられません。

一番のやりがいは、少しずつ成長していく子どもたちをそばで感じられること。それを見守るのが楽しみで、私たちの生きがいです。それと大切なお子さんを預かるので、責任と緊張が生まれます。お子さんの笑顔と適度な緊張感が私たち夫婦の元気の源ですね。